

平成 2 5 年度

財政事情と主要な施策の成果

魚沼地区障害福祉組合

# 目 次

第 1	組合会計の状況	1
1	決算の概要	1
(1)	決算収支	1
(2)	決算額の推移	2
(3)	歳入の状況	3
ア	歳入科目別内訳	3
イ	負担金及び県支出金の内訳	4
ウ	諸収入の内訳	5
(4)	歳出の財源内訳	6
(5)	年度別の主な請負工事と購入備品	7
(6)	組合費及び繰越金の推移	8
(7)	基金積立金の状況	9
(8)	決算の特徴	10
第 2	業務の概要と成果	13
1	児童・利用者の概況（平成 26 年 3 月 31 日現在）	13
2	職員の状況	15
3	施設運営・支援の概要	16
4	今後の課題	17

# 第1 組合会計の状況

## 1 決算の概要

### (1) 決算収支

組合一般会計の決算額は、

歳入 3億5,317万4千円（平成24年度 4億1,156万0千円）

歳出 3億1,027万6千円（平成24年度 3億8,829万6千円）

であり、前年度に比べて歳入歳出は次のような減額となりました。

歳入 5,838万6千円減（14.19%減）

歳出 7,802万0千円減（20.09%減）

#### 形式収支

平成25年度の形式収支（歳入歳出差引額）は、4,289万8千円となりました。

（平成24年度 2,326万4千円）

#### 実質収支

平成25年度の実質収支（形質収支から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた額）は、4,289万8千円となりました。

（平成24年度 2,326万4千円）

#### 単年度収支

実質収支4,289万8千円から、前年度実質収支2,326万4千円を差し引いた単年度収支額は、1,963万4千円となりました。

（平成24年度 230万0千円）

#### 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金積立金5千円を加え、これから当該年度において取り崩した基金積立金111万円を差し引いた実質単年度収支額は、1,852万9千円となりました。

（平成24年度 3,596万円0千円）

## (2) 決算額の推移

(単位：千円)

年度	歳 入		歳 出	
	決 算 額	前 年 度 比 較	決 算 額	前 年 度 比 較
平 成 18年度	387,989	▲ 29,508	374,769	▲ 27,851
平 成 19年度	399,645	11,656	374,250	▲ 519
平 成 20年度	392,316	▲ 7,329	377,588	3,338
平 成 21年度	374,992	▲ 17,324	367,642	▲ 9,946
平 成 22年度	361,721	▲ 13,271	356,038	▲ 11,604
平 成 23年度	366,776	5,055	345,812	▲ 10,226
平 成 24年度	411,560	44,784	388,296	42,484
平 成 25年度	353,174	▲ 58,386	310,276	▲ 78,020

## (3) 歳入の状況

## ア 歳入科目別内訳

(単位：千円)

区	分	平成25年度	平成24年度	増 減
分担金及び		249,346	257,474	▲ 8,128
負担金	分担金	62,660	68,738	▲ 6,078
	経常費分担金	186,686	188,736	▲ 2,050
	負担金	22,849	29,781	▲ 6,932
	児童福祉費	4,717	10,387	▲ 5,670
	市町障害児施設 入所給付費	14,183	15,217	▲ 1,034
	市町居宅生活 給付費	1,930	2,092	▲ 162
	障害児童施設利 用者負担金	2,019	2,085	▲ 66
	居宅生活支援 利用者負担金	163,837	158,955	4,882
	社会福祉費	148,246	142,575	5,671
	市町施設入所支 援介護給付費	54	0	54
	市町居宅生活 支 援	15,516	16,380	▲ 864
	施設支援介護利 用者負担金	21	0	21
	居宅生活支援費 利用者負担金			
県支出金		75,053	112,527	▲ 37,474
	県補助金	0	229	▲ 229
	児童福祉費金 補 助	30,512	33,634	▲ 3,122
	県委託金	44,541	78,664	▲ 34,123
	児童福祉費金 委 託			
	施設給付金			
	障害児施設 給 付			
財産収入	基金及び積立金	13	11	2
寄 附 金	寄 附 金	30	1,175	▲ 1,145
繰 入 金	基金繰入金	1,110	13,000	▲ 11,890
繰 越 金	前年度繰越金	23,264	20,964	2,300
諸 収 入		4,358	6,409	▲ 2,051
	給食費徴収金	423	2,200	▲ 1,777
	雑 入	3,935	4,209	▲ 274
歳 入 合 計		353,174	411,560	▲ 58,386

イ 負担金及び県支出金の内訳

(単位:千円)

区分	比較		魚沼学		魚沼更		魚沼生		合計				
	平成25年度	平成24年度	増	減	平成25年度	平成24年度	増	減	平成25年度	平成24年度	増	減	
負担金	市町障害児施設入所給付費	4,717	10,387	▲ 5,670	0	0	0	0	4,717	10,387	▲ 5,670	0	
	市町居宅生活給付費	14,183	15,217	▲ 1,034	0	0	0	0	14,183	15,217	▲ 1,034	0	
	障害児児童施設利用者負担金	1,930	2,092	▲ 162	0	0	0	0	1,930	2,092	▲ 162	0	
	居宅生活支援利用者負担金	2,019	2,085	▲ 66	0	0	0	0	2,019	2,085	▲ 66	0	
	小計	22,849	29,781	▲ 6,932	0	0	0	0	22,849	29,781	▲ 6,932	0	
	市町施設入所支援介護給付費	0	0	0	0	148,246	142,575	5,671	5,671	148,246	142,575	5,671	5,671
	市町居宅生活支援費	0	0	0	0	54	0	54	54	0	54	0	54
	更生園施設支援利用者負担金	0	0	0	0	15,516	16,380	▲ 864	▲ 864	15,516	16,380	▲ 864	▲ 864
	居宅生活支援費利用者負担金	0	0	0	0	21	0	21	21	0	21	0	21
	小計	0	0	0	0	163,837	158,955	4,882	4,882	163,837	158,955	4,882	4,882
小計	22,849	29,781	▲ 6,932	0	163,837	158,955	4,882	4,882	186,686	188,736	▲ 2,050	▲ 2,050	
県補助金	0	229	▲ 229	▲ 229	0	0	0	0	0	229	▲ 229	▲ 229	
管理委託基準による事務費	21,923	24,074	▲ 2,151	▲ 2,151	0	0	0	0	21,923	24,074	▲ 2,151	▲ 2,151	
重度指定加算	2,526	749	1,777	1,777	0	0	0	0	2,526	749	1,777	1,777	
25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	2,526	749	1,777	1,777	0	0	0	0	2,526	749	1,777	1,777	
小計	2,526	749	1,777	1,777	0	0	0	0	2,526	749	1,777	1,777	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
被虐待時受入加算費	38	718	▲ 680	▲ 680	0	0	0	0	38	718	▲ 680	▲ 680	
一般生活費	4,545	5,823	▲ 1,278	▲ 1,278	0	0	0	0	4,545	5,823	▲ 1,278	▲ 1,278	
教養費	352	448	▲ 96	▲ 96	0	0	0	0	352	448	▲ 96	▲ 96	
見学旅行費	215	164	51	51	0	0	0	0	215	164	51	51	
入進学支度金	0	46	▲ 46	▲ 46	0	0	0	0	0	46	▲ 46	▲ 46	
高等部進学費	0	119	▲ 119	▲ 119	0	0	0	0	0	119	▲ 119	▲ 119	
学校給食費	448	570	▲ 122	▲ 122	0	0	0	0	448	570	▲ 122	▲ 122	
期末一時扶助費	40	51	▲ 11	▲ 11	0	0	0	0	40	51	▲ 11	▲ 11	
探暖費	327	409	▲ 82	▲ 82	0	0	0	0	327	409	▲ 82	▲ 82	
緊急一時保護委託料	19	247	▲ 228	▲ 228	0	0	0	0	19	247	▲ 228	▲ 228	
就職支度金	79	216	▲ 137	▲ 137	0	0	0	0	79	216	▲ 137	▲ 137	
小計	30,512	33,634	▲ 3,122	▲ 3,122	0	0	0	0	30,512	33,634	▲ 3,122	▲ 3,122	
施設給付金	44,541	78,664	▲ 34,123	▲ 34,123	0	0	0	0	44,541	78,664	▲ 34,123	▲ 34,123	
小計	75,053	112,527	▲ 37,474	▲ 37,474	0	0	0	0	75,053	112,527	▲ 37,474	▲ 37,474	
小計	97,902	142,308	▲ 44,406	▲ 44,406	163,837	158,955	4,882	4,882	261,739	301,263	▲ 39,524	▲ 39,524	
合計	97,902	142,308	▲ 44,406	▲ 44,406	163,837	158,955	4,882	4,882	261,739	301,263	▲ 39,524	▲ 39,524	

ウ 諸収入の内訳

(単位：円)

区	分	平成25年度	平成24年度	増 減
職員給食費 徴収金	施設職員分	374,740	2,075,530	▲ 1,700,790
	実習生分	35,300	111,300	▲ 76,000
	外来者分	11,900	12,600	▲ 700
	計	421,940	2,199,430	▲ 1,777,490
雑入	園芸班売上収入	1,089,949	1,266,470	▲ 176,521
	家庭科班売上収入	163,755	250,339	▲ 86,584
	学卒作業班収入	0	50,540	▲ 50,540
	ふれあい バサー即売代	45,138	59,032	▲ 13,894
	私用電話・複写機 使用料	5,945	15,571	▲ 9,626
	特別支援学校 電気料等負担金	2,091,432	2,042,020	49,412
	実習謝礼	214,000	209,000	5,000
	非常勤職員 雇用保険料	175,310	192,705	▲ 17,395
	保険料還付金	44,760	4,660	40,100
	土地貸借料還付金	0	16,506	▲ 16,506
	保険等事務手数料	82,846	80,460	2,386
	自動販売機 利用還付金	21,376	21,343	33
	公衆電話還付金	980	495	485
	計	3,935,491	4,209,141	▲ 273,650
合	計	4,357,431	6,408,571	▲ 2,051,140

# (4) 歳出の財源内訳

(単位:千円)

目的別 性質別	1.議会費			2.総務費						3.民生費						合 計									
	総 額			(1)総務管理費			(2)監査委員費			総 額			(1)児童福祉費			(2)社会福祉費									
	H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24	比較	H25	H24	比較							
1.人件費	20	24	▲ 4	153	20,814	▲ 20,661	141	20,802	▲ 20,661	12	12	0	230,925	227,506	3,419	88,712	106,307	▲ 17,595	142,213	121,199	21,014	231,098	248,344	▲ 17,246	
うち職員給	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175,671	188,786	▲ 13,115	67,358	84,569	▲ 17,211	108,313	104,217	4,096	175,671	188,786	▲ 13,115	
2.物件費	28	30	▲ 2	6,768	125	6,643	6,759	120	6,639	9	5	4	25,175	38,571	▲ 13,396	8,250	15,300	▲ 7,050	16,925	23,271	▲ 6,346	31,971	38,726	▲ 6,755	
3.維持補修費	0	0	0	684	0	684	684	0	684	0	0	0	971	3,525	▲ 2,554	118	1,126	▲ 1,008	853	2,399	▲ 1,546	1,655	3,525	▲ 1,870	
4.扶助費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28,820	33,397	▲ 4,577	16,046	19,448	▲ 3,402	12,774	13,949	▲ 1,175	28,820	33,397	▲ 4,577	
5.補助費等	0	0	0	505	311	194	505	311	194	0	0	0	632	893	▲ 261	0	376	▲ 376	632	517	115	1,137	1,204	▲ 67	
6.普通建設事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13,588	16,240	▲ 2,652	12,753	15,100	▲ 2,347	835	1,140	▲ 305	13,588	16,240	▲ 2,652	
7.公債費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8.積立金	0	0	0	2,007	46,860	▲ 44,853	2,007	46,860	▲ 44,853	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,007	46,860	▲ 44,853
9.その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歳出合計	48	54	▲ 6	10,117	68,110	▲ 57,993	10,096	68,093	▲ 57,997	21	17	4	300,111	320,132	▲ 20,021	125,879	157,657	▲ 31,778	174,232	162,475	11,757	310,276	388,296	▲ 78,020	
財源	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75,053	112,527	▲ 37,474	75,053	112,527	▲ 37,474	0	0	0	75,053	112,527	▲ 37,474	
国 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,487	0	19,487	3,950	0	3,950	15,537	0	15,537	19,487	0	19,487	
使 用 料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
分租金・負担金・寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	167,200	188,736	▲ 21,536	18,900	29,781	▲ 10,881	148,300	158,955	▲ 10,655	167,200	188,736	▲ 21,536	
財 産 収 入	0	0	0	13	0	13	13	0	13	0	0	0	0	746	▲ 746	0	5	▲ 5	0	741	▲ 741	13	746	▲ 733	
繰 入 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸 収 入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,143	4,573	▲ 430	2,889	2,515	374	1,254	2,058	▲ 804	4,143	4,573	▲ 430	
繰 越 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地 方 債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一 般 財 源	48	54	▲ 6	10,104	68,110	▲ 58,006	10,083	68,093	▲ 58,010	21	17	4	34,228	13,550	20,678	25,087	12,829	12,258	9,141	721	8,420	44,380	81,714	▲ 37,334	

※ 各性質別区分は、地方財政状況調査に基づく分類です。このため、実際の会計科目における執行の集計区分が一部異なっています。



## (5) 年度別の主な請負工事と購入備品

(単位：千円)

年 度	金 額	項 目
平成22年度	5,767	更生園屋根塗装工事
	3,919	学園食堂棟床改修工事
	453	更生園入口階段修繕工事
	1,960	パソコン 11台
	1,249	学園更生園居室用液晶デジタルテレビ 32台
	168	非常用発電機 1台
	218	非常用ガストーブ 3台
計	13,734	
平成23年度	1,825	学園ガス経年管入替工事
	1,278	体育館内壁改修工事
	1,291	更生園車庫建築工事
	71	更生園車庫照明工事
	2,709	利用者外出用公用車 1台
	1,263	ノートパソコン 7台
	237	レーザープリンター 3台
	384	会議用テーブル 15台
	143	家庭科作業用工業用ミシン 1台
	200	更生園ジェットタオル 2台
165	学園押入れタンス 6棹	
計	9,566	
平成24年度	1,277	作業棟屋根塗替工事
	1,016	管理棟エアコン取替工事
	232	学園プレイルーム・廊下塗装工事
	123	学園プール小屋電話線配線工事
	1,208	フォークリフト（中古2t）スノーバケット付 1台
	925	ノートパソコン 6台
	169	オフィスチェア 28脚
	259	更生園食堂用椅子 9脚
計	5,209	
平成25年度	857	体育館西南側外壁面塗装工事
	835	更生園ディールーム改修工事
	245	ノートパソコン 2台
	630	イントラ用サーバ機器 1式
	89	車いす 3台
	84	洗濯機 1台
	83	クローゼット用チェスト 5点
	73	掃除機 3台
57	冷蔵庫 1台	
計	2,953	

(6) 組合費及び繰越金の推移

(単位：千円)

年度	経常費分担金 A	建設費分担金	分担金計	歳出総額 B	経常費分担金総額に占める割合 A/B	前年度繰越金
H14	注1 80,824	注2 10,140	90,964	416,460	19.41%	6,914
H15	注3 81,065	注2 10,140	91,205	432,719	18.73%	4,778
H16	注4 77,854	0	77,854	411,354	18.93%	9,953
H17	注5 73,842	0	73,842	402,620	18.34%	15,697
H18	注6 74,247	0	74,247	374,769	19.81%	14,877
H19	注7 81,730	0	81,730	374,250	21.84%	13,220
H20	注8 72,178	0	72,178	377,588	19.12%	25,395
H21	注9 71,680	0	71,680	367,642	19.50%	14,728
H22	注10 54,015	0	54,015	356,038	15.17%	7,350
H23	注11 60,045	0	60,045	345,812	17.36%	5,683
H24	注12 68,738	0	68,738	388,296	17.70%	20,964
H25	注13 62,660	0	62,660	310,276	20.19%	23,264

注1 新潟市・与板町・横越町（組合構成団体外）より措置児童分担金分1,324千円を含む。  
注2 昭和58年度発行・魚沼更生園建設債99,200千円分の償還に係るもの。  
注3 新潟市・与板町・横越町・吉田町（組合構成団体外）より措置児童分担金分1,565千円を含む。  
注4 新潟市・与板町・横越町・吉田町（組合構成団体外）より措置児童分担金分1,854千円を含む。  
注5 新潟市・与板町・吉田町（組合構成団体外）より措置児童分担金分1,842千円を含む。  
注6 新潟市・長岡市・燕市・日高市（組合構成団体外）より利用者分担金分2,247千円を含む。  
注7 新潟市・長岡市・燕市・日高市（組合構成団体外）より利用者分担金分2,730千円を含む。  
注8 新潟市・長岡市・燕市（組合構成団体外）より利用者分担金分2,178千円を含む。  
注9 新潟市・長岡市・燕市（組合構成団体外）より利用者分担金分1,680千円を含む。  
注10 新潟市・長岡市・燕市（組合構成団体外）より利用者分担金分2,015千円を含む。  
注11 新潟市・長岡市・燕市（組合構成団体外）より利用者分担金分3,045千円を含む。  
注12 新潟市・長岡市・燕市（組合構成団体外）より利用者分担金分3,738千円を含む。  
注13 新潟市・長岡市・三条市（組合構成団体外）より利用者分担金分2,660千円を含む。

(7) 基金積立金の状況

(単位：千円)

項 目 別	平成24年度末残高	平成25年度中増減			平成25年度末残高	備 考
		積 立 額	取 崩 額	額		
施設整備基金	9,440	2,002	0	0	11,442	
財政調整基金	138,518	5	1,110	1,110	137,413	
計	147,958	2,007	1,110	1,110	148,855	

## (8) 決算の特徴

### 歳入について

歳入総額は 353,174 千円となり、前年度決算額（411,560 千円）対比 58,386 千円（14.19%）の減額となりました。なお、予算現額（339,000 千円）に対しては、14,174 千円の増額となりました。その主な特徴は、以下のとおりです。

#### ① 1 款「分担金及び負担金」関係

2 項 1 目の児童福祉費負担金については、日中一時支援事業の利用数減少に伴い市町給付費の減額が見込まれたため、予算を減額補正しました。一方で、魚沼学園の短期入所利用が伸びたことから、最終的に予算現額に対して 1,829 千円の増額となりました。

2 項 2 目の社会福祉費負担金では、魚沼更生園の施設入所に係る介護給付費算定において、年度当初段階で不確定とされていた職員配置加算額及び夜勤体制加算額を算定に加えることが確実となったことから、予算を増額補正したものの、最終的に予算現額に対して 2,007 千円の増額となりました。

#### ② 2 款「県支出金」関係

1 項 1 目の民生費県補助金については、魚沼学園における産休等代替職員賃金補助金を見込んでおりましたが、魚沼学園配置職員において該当がなかったため収入はありませんでした。

2 項 1 目の民生費県委託金では、新潟市からの措置入所児童（1 人）に係る障害程度加算額を修正算定し、過去分についても遡及適用し交付されることになったため、予算額に対して増額となりました。

また、3 項 1 目の施設給付金については、当初見込んでいた契約入所児童数以上に実際の契約入所が見込まれることになったため予算を増額補正したものの、最終的に予算現額に対し 4,541 千円の増額となりました。

#### ③ 5 款「繰入金」及び 6 款「繰越金」関係

当初、一般財源不足分に充当するため、財政調整基金から 23,000 千円の繰入（取崩し）を見込んでおりましたが、前年度からの繰越金が大幅に伸びたことから、繰越金については増額補正を実施し、また、財政調整基金繰入金については相当額分の取崩しを行わずに予算の減額補正を実施しています。

#### ④ 7 款「諸収入」関係

職員配置及び組織体制の見直しに伴い、平成 25 年 7 月から職員への給食提供を

廃止した関係で、当初見込んでいた給食費実費徴収が大幅に減額することになったことから、年度途中で予算を減額補正しています。

## 歳出について

歳出総額は310,276千円となり、前年度決算額(388,296千円)対比78,020千円(20.09%)の大幅な減額となりました。なお、予算現額(339,000千円)に対しては、28,724千円の減額となりました。その主な特徴は、以下のとおりです。

### ① 1款「議会費」関係

議会議員に対する費用弁償の算定方法を魚沼市に準じて見直したことに伴い、年度途中で不足見込分を増額補正したものの、最終的には予算現額に対して68千円が不用となりました。

### ② 2款「総務費」関係

1項1目の一般管理費において、イントラ用メインサーバを入れ替えたことに伴う初期設定業務委託料として945千円を執行しました。

また、1項2目の財産管理費において、魚沼学園建替事業に係る実施設計業務委託料として11,897千円を執行しました。この関係で、予算現額に対して請負差額分の不用額が見込まれたため、2,000千円を同項3目の施設整備基金費において施設整備基金積立金に流用し執行しました。(同一款項内の流用・金額変更であるため、地方自治法第216条、同施行令第147条及び同施行規則第15条第1項に基づく議会議決を要する予算の追加・更正に該当しないことから、補正予算対応しておりません。)

また、同目において、体育館西南側外壁面塗装工事で魚沼更生園ダイルーム改修工事を実施し、857千円と835千円をそれぞれ執行したほか、故障によるノートパソコン2台の入替費用として245千円を、イントラ用メインサーバ機器の更新費用として630千円を執行しました。

なお、翌年度以降に魚沼学園建替工事を控えていることもあり、建替予定施設内における改修・修繕を抑制するなど、支出経費の縮減を図りました。

また、2項1目監査委員費では、議会議員費用と同様に監査委員に対する費用弁償の算定方法を魚沼市に準じて見直したことに伴い、年度途中で不足見込分を増額補正したものの、最終的には予算現額に対して14千円が不用となりました。

その他、全般的に支出のあり方について見直しを行ったほか、事務的経費の支出抑制に努めた結果、2款全体では予算現額に対して12,869千円が不用となりました。

③ 3 款「民生費」関係

職員配置の見直しによる職員数縮減を進めたことにより、1 項児童福祉費及び 2 項社会福祉費のそれぞれの正職員人件費（2 節、3 節及び 4 節）及び非常勤職員経費（4 節及び 7 節）を合わせた職員経費については、前年度決算額対比で 16,630 千円が縮減され、うち正職員人件費では 9,367 千円が減額となりました。

1 項の児童福祉費における教育訓練費、飲食物費及び日常諸費を合わせた魚沼学園利用児童等に対する保護・指導関連経費では 17,647 千円を執行し、入所児童数の変動などの要因により前年度決算額対比で 3,540 千円の減額となっております。

また、2 項の社会福祉費における指導訓練費、飲食物費及び日常諸費を合わせた魚沼更生園利用者に対する保護・指導関連経費では、前年度並みの 20,156 千円を執行しました。

こうした状況により、3 款全体では予算現額に対して 13,787 千円が不用となりました。

## 第2 業務の概要と成果

### 1 児童・利用者の概況（平成26年3月31日現在）

#### (1) 在籍児・者の状況

魚沼学園【定員30人／在籍24人】

##### ア 年齢別児童数

(人)

性別	年齢																						計
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22						
男					2	1	1	1	2	2	1	3	5			1		19					
女								1			3	1						5					
計					2	1	1	1	3	2	1	6	6			1		24					

##### イ 学年別児童数

(人)

性別	小学部						中学部			高等部			学卒	計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
男				2	1	1	1	2	2	1	3	5	1	19
女							1				3	1		5
計				2	1	1	2	2	2	1	6	6	1	24

##### ウ 障害程度（IQ指数）別児童数

(人)

性別	軽度		中度		重度		計
	61以上	60～51	50～41	40～36	35以下	IQ測定不能	
男	6	1	4		4	4	19
女	1	1		1	2		5
計	7	2	4	1	6	4	24

(DQ検査結果の者はIQ測定不能に分類)

##### エ 月別契約・措置別児童数

(人)

区分	月												延計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
契約	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	200
措置	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
計	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	296

※ 主な合併症の症状

- ・てんかん      ・情緒不安定      ・ダウン症      ・自閉傾向      ・心疾患

**魚沼更生園【定員 40 人／在籍 39 人】**

ア 年齢別利用者数

年齢 性別		(人)																											
		27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	57	58	59	計	
男	1	1						2	3	1	4	1	2	1		2	1			2			1				1		23
女							2	2	2	2	1		1					1	2	1	1		1					16	
計	1	1					2	4	5	3	5	1	3	1		2	2	2	1	3		2				1		39	

イ 障害程度区分\*認定別利用者数

(人)							
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男		1	4	7	6	5	23
女			3	8	3	2	16
計		1	7	15	9	7	39

※ 主な合併症の症状

- ・てんかん      ・喘息      ・情緒不安定      ・ダウン症      ・自閉傾向
- ・肢体不自由      ・難聴      ・虚弱      ・言語なし

**(2) 市町別在籍者数**

区分		(人)										
		市町		長岡市	小千谷市	十日町市	南魚沼市	湯沢町	津南町	魚沼市	構成市町外	合計
		旧山古志村	旧川口町									
魚沼学園	男			2	2	7	1	1	3	3	19	
	女						1		3	1	5	
	計			2	2	7	2	1	6	4	24	
魚沼更生園	男		3	4	2	6			8		23	
	女	1		6		4	1		4		16	
	計	1	3	10	2	10	1		12		39	
合計		1	3	12	4	17	3	1	18	4	63	

\* 平成 26 年 4 月 1 日からは、区分名称を「障害支援区分」に改定。



### (3) 入退所の状況

#### 魚沼学園

	発生年月	男女別	人数	発生時年齢	出身市町	備考
入所状況	平成25年4月	男	1	14	南魚沼市	
	平成25年10月	男	1	12	小千谷市	
退所状況	平成25年9月	男	1	21	(構成市町外)	他成人施設入所
	平成25年11月	男	1	18	南魚沼市	死亡(交通事故)
	平成26年3月	男	1	18	(構成市町外)	自宅/一般就職
	平成26年3月	男	1	18	津南町	自宅/福祉就労
	平成26年3月	男	1	18	魚沼市	自宅/一般就職
	平成26年3月	男	1	18	南魚沼市	自宅/福祉就労
	平成26年3月	男	1	21	小千谷市	魚沼更生園入所
一時保護	平成26年3月	女	1	13	湯沢町	魚沼更生園入所

#### 魚沼更生園

	発生年月日	男女別	人数	発生時年齢	出身市町	備考
入所状況	(該当なし)					
退所状況	平成25年11月	女	1	47	南魚沼市	グループホーム/福祉就労
	平成26年3月	男	1	36	南魚沼市	グループホーム/福祉就労

### (4) 月別在籍者数の状況

(人)

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延計
魚沼学園 定員30人	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	296
魚沼更生園 定員40人	40	40	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	476
計	65	65	65	65	65	65	65	65	63	63	63	63	772

## 2 職員の状況(平成26年3月31日現在)

(人)

施設	配置	正職員													非常勤等職員	合計		
		園長	庶務課					指導課									計	
			庶務課長補佐	庶務係長	事務員(主任)	栄養士	調理員	用務員	指導課長	課長補佐	指導係長	児童指導員	保育士	作業指導員				生活指導員
魚沼学園	[1]			1	[1]	1		1		1	2	4			10	6	16	
魚沼更生園	1	1	1		1	1	1	1					1	7	1	17	12	29
計	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	4	1	7	1	27	18	45

\* 『[ ]』は兼任を表し、合計値には反映しない。

\* 正職員数には育児休業者を含み、非常勤等職員数には一時的雇用及び短期労働を含まない。

### 3 施設運営・支援の概要

#### (1) 施設運営について

##### ① 魚沼学園

在籍児童数の現況及び構成市町における在宅児の動向予測並びに将来需要推計に基づき、平成25年4月1日から定員をこれまでの40人から30人に変更しました。

入所児童数については、年度当初では、小学部児童4人、中学部生徒5人、高等部生徒14人に学卒進路未決定者2人を加えた計25人が在籍していましたが、年度内の入退所等の異動により、年度末の在籍人数は、小学部児童4人、中学部生徒6人、高等部生徒13人に学卒進路未決定者1人を加えた計24人となり、新潟県内の知的障害児施設の中でも比較的に入所児童者数が多い施設となりました。

平成25年度中（年度末含む）に8人が退所しましたが、それぞれの退所後の進路としては、自宅からの一般就職2人、自宅からの福祉就労2人、魚沼更生園入所2人、他の成人施設入所1人、死亡退所1人となっております。

なお、入所定員の変更にあわせて、職員の配置及び勤務体制の見直しを行いました。

##### ② 魚沼更生園

平成25年4月1日現在では、入所定員40人に対して40人が在籍していましたが、年度内において退所者が発生したことにより、年度末の入所者数は39人となりました。

平成25年度中（年度末含む）に2人が退所しましたが、退所後の進路としては、いずれもグループホームに入所し福祉的就労事業所で就労する「地域移行」となりました。

#### (2) 児童・利用者の支援について

魚沼学園及び魚沼更生園では、季節に合わせたさまざまな年中行事を取り入れながら、毎月の誕生会などを織り交ぜて、児童・利用者が楽しめる内容の活動を計画し実施しました。

また、児童・利用者に対する支援サービスについては、保護者を交えながらそれぞれの特性や事情に配慮した支援内容について協議し、双方合意の下でひとり一人の個別支援計画を策定した上で、計画に基づく適切なサービスの提供を行いました。

なお、入所中には、児童・利用者の生活状況等に変化がみられることも想定されることから、魚沼学園では、必要に応じて保護者及び小出特別支援学校担任教諭等を交えた関係者とのケース連絡会議を実施したほか、魚沼更生園では、随時、保護者との

話し合い・協議の場を設けながら、支援内容の調整や見直しを行いました。

こうした取組を通じて、安心して生活できる環境づくりを進めるとともに、児童・利用者の現況に即した支援サービスを提供しました。

### (3) 魚沼学園建替事業について

魚沼学園の宿舍棟と食堂棟等では、建築後 40 年以上が経過し、老朽化に伴う施設内外の損傷や劣化が顕著となっておりますので、数年前より施設の改築・建替について検討を進めてきたところです。

平成 24 年度には測量調査及び建築整備基本設計を、また、平成 25 年度には実施設計を行うとともに、設計作業と並行して構成市町との間において建築構造や具体的な費用負担の方法、予算等について議論を重ねてきました。

その結果、新しい魚沼学園は、木造 2 階建による定員 20 人の「福祉型障害児入所施設」とし、工期を平成 27 年 9 月までとする 2 箇年事業の継続費予算により建設することに決定いたしました。

### (4) 関係機関や地域との連携について

施設運営にあたっては、当組合を構成する市町の理解と協力が不可欠であることは言うまでもありませんが、県の関係機関（障害福祉課、児童相談所（南魚沼・長岡））及び小出特別支援学校からの指導をいただくとともに、知的障害者福祉協会などの関係団体や県内の同種施設からの情報収集を進めながら、サービスの質の向上や児童・利用者の満足度向上に努めました。

加えて、魚沼学園・魚沼更生園保護者会との連携強化を図るとともに、年間を通して様々な場面で各種団体からのボランティアや奉仕活動などの協力をいただきました。

また、各種イベントに児童・利用者が参加する機会を設定いただいたほか、地域の催し物や近隣の公的施設において児童・利用者の作品等を展示・即売を行うなど、地域住民との交流を深めながら障害者への理解を求める活動にも取り組みました。

## 4 今後の課題

### (1) 魚沼学園建替事業に係る財源負担等について

建替事業の財源については、公立社会福祉施設建設に係る国庫補助制度が廃止されたことや他の国県助成制度が対象とならないことなどにより、起債のほか自主財源（基金取崩）及び構成市町分担金を充当することとしました。

このうち、構成市町分担金のあり方をめぐって、按分方法はもとより、構成市町ごとの入所枠数の設定や後年度起債償還額に係る普通交付税措置額の算入方法などにつ

いて度重なる協議を行い、この協議結果を「魚沼学園の建替費用の分担に関する協定書」にまとめたところであります。

今後、協定書に表現できなかった範囲の取扱いに係る構成市町間の協議・調整や、関係機関の理解と協力などが円滑に進められるよう求められるところであります。

## **(2) 組合設立 50 周年記念事業の実施について**

当組合は、昭和 36 年 9 月に設立され、その翌年 6 月に魚沼学園が、また、昭和 59 年 4 月には魚沼更生園がそれぞれ開設されました。

平成 26 年度には、魚沼学園が創立 52 年を迎え、魚沼更生園が創立 30 周年を迎えることとなりますが、(魚沼学園では節目となる 50 年を過ぎたものの) 周年記念事業については魚沼学園の改築・建替を優先することとして、これまで実施を先送りしてきました。

このため、魚沼学園の建替工事が竣工する平成 27 年 9 月以降に記念事業を実施する方向で、具体的内容や実施体制などについて検討を進める必要があります。

## **(3) 魚沼更生園入所者の加齢化及び同保護者の高齢化と施設の改修について**

魚沼更生園では、長期入所者の加齢が進行しつつあり、平成 25 年度末時点における平均年齢が 38.8 歳、最高年齢が 58 歳(1 人)となっております。退所者の発生による入所の入れ替わりが少ない魚沼更生園では、年々利用者の平均年齢が上昇する傾向が予想され、(利用者の) 加齢に伴う身体機能の衰えの進行により、介助する側の身体的負担の増加が懸念されています。

このため、今後、介護保険を適用する場合における他施設の受入について調査する必要があるほか、当施設における対応についても施設設備とマンパワーの両面から研究を進めなければならないと考えます。

その際、当施設自体も建築後 30 年が経過し老朽化が進行していることもあり、施設機能の向上と併せた改修・改築についても、ともに検討する必要性が生じてくると思われます。

また、保護者からは、自身の高齢化に伴い利用者の将来を不安がる声も寄せられており、成年後見人制度の活用に向けた勉強会の開催が求められております。

こうした問題について、当組合以外に同種施設を運営する近隣近郷の同業民間法人も交えながら共通認識の下で、将来の施設運営のあり方を含めて議論を始めなければならないと考えます。

なお、民間事業者に対する国県による支援が拡充されている一方で、公立施設に対する助成制度がこの 10 年の間に大幅に縮減されている状況なども鑑み、今後の施設の改修と運営を含めた課題の全般について、公営と民営の場合の比較検討を行いながら総合的に将来のあり方を検討する必要があります。

#### (4) 施設の特徴と独自性を活かした利用増進について

近年、当組合を構成するいくつかの市町において、市町立の特別支援学校が相次いで開校しております。この関係で、小出特別支援学校に通学させるために魚沼学園に入所させていた児童が在宅通学・転校に切り替わったケースもあり、魚沼学園では平成26年度から定員を20人に削減することとしています。

こうした中であって、魚沼学園は小出特別支援学校に隣接していることから、学校の寄宿舎的な性質を生かして通学の安全安心を提供できることや自宅介助の負担を軽減できることなどの優位性があることについて、保護者から支持をいただいております。

また、昨今では、少子化社会が急速に進行しているものの、出生者数に対する知的障害者数の割合は逆に増加傾向にあることや、核家族化から大家族化への回帰がみられないこと、また、児童相談所を通じた児童虐待に対する緊急保護や措置入所の相談件数が漸増していることなどの理由により、魚沼学園に対する需要は今後も変わらずに続くものと思われまます。

一方の、魚沼更生園については、重度障害者の比率が高い魚沼学園入所児童（の保護者）にとって、卒園年齢に達齢後の進路選択の重要な選択肢の一つとなっており、（障害の程度により）グループホームや就労施設などで対応できないケースや生活環境の変化に対応できない場合などに、幼少時からの顔がわかる職員による細心のサービスを提供することができます。

このような、当組合施設ならではのメリットを、今後も構成市町や対象者に対して情報発信していく必要があります。

#### (5) 人材の育成と組織力強化について

当組合では、施設開設時における同年代職員の一斉採用などにより職員の年齢層に偏りがみられています。また、近年は、歳出経費の削減を図るために退職職員の欠員補充を抑制し、欠員補充を行う場合にあっても非常勤職員の採用で対応してきた経緯があるため、職員間の待遇格差による士気の低下や組織の弱体化が懸念されています。

こうした状況に加え、今後10年以内に定年を迎える職員が多く、これから先順次退職することになるため、技術や技能の継承や管理能力の養成など、人材の育成に急いで取り組まなければなりません。

なお、職員年齢層の偏りや正職員比率の減少に伴う組織上の諸問題については、当施設単独で早急に解決できない場面も考えられるため、上記(3)の課題と併せて、今後、同業民間法人との間で人事交流などについても研究を開始する必要があるほか、構成市町からの派遣人事のあり方についても今後議論を重ねていかなければならないと考えます。